

小学校第2学年 道徳科学習指導案

日時 平成30年10月16日(火)2校時
指導者 教育センター所員 平川 敏誠

1 主題名 「生きているしるし」 (D-17【生命の尊さ】)

2 教材名 「たんじょう日」(東京書籍)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

生命を大切にし、尊重することは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。つながりの中でこそ人は生きていけるのである。しかし、世の中にはいじめや虐待など生命をもてあそぶような行為がしばしば見受けられ、心を痛めることも多い。知識として知っているだけでは自分のいのちを守ることはできない。だからこそ、自分のいのちそのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そして、そのことを喜び、素晴らしいことと感ずることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。

○児童の実態について

本学級の児童に「いのち」についてのアンケートをとったところ、全ての児童が「いのち」は大切だと感じていた。しかし、自分が今現在生きていることの素晴らしさや、日々の生活の中で生きていることを実感した経験は、そう多くなかった。また、自分の誕生日が楽しみと答えた児童のほとんどが、その理由にケーキやプレゼントを挙げていた。周囲の人々から命の大切さを感じることがうかがえた。また、家族構成で配慮が必要な児童も在籍している。自分の誕生を心待ちにしていた人を家族にまで広げ、今もいのちを大切に思う人が多くいることを伝えるようにしたい。

○教材について

本教材は、主人公のなつこが、自分が生まれた時のことについてお母さんから話を聴き、自分のいのちについて考えを深めるという話である。なつこが未熟児として生まれ40日間保育器に入っていたこと、その間お母さんが毎日お乳を哺乳瓶に入れて届けていたことなどの事実や、なつこに対するお母さんの思いや心配が描いてあり、いのちがあることの奇跡性に気付いたり、ふつうに生きているだけでも素晴らしいことだと感じたりすることができる内容である。
教材の活用としては、まず、保育器の挿絵を使用し、その機能や母親の服装などの理由を考えさせることができる。そこから、いのちがあることは当たり前ではなく、親や周囲の愛情や気遣いが大きく関わっていることに気付かせたい。また、母親が最後に言う「それがこんなに大きくなって、うれしいわ。」という言葉に注目させ、赤ちゃんの頃だけでなく、今も大きな愛情をもっていることに気付かせたい。

○指導の重点

生命尊重の学びにおいて、最も大切なのは、いのちのありがたさや大切さを児童が実感することである。特に低学年の児童においては、思考力より共感の方が、より重要な役割を担っていると考える。そこで、三つのことを意識して授業を仕組む。一つ目は、五感を通していのちを捉える時間をつくることである。映像や具体物を使って、いのちの誕生について様々な側面からイメージできるようにしたり、導入でクイズやエクササイズを通して、いのちへの感触を全員がもてるように仕向けたりしたい。また、そのようにして気付いた様々なことを「生きているしるし」としてまとめ、理解を深められるようにする。二つ目に、役割演技を取り入れて、主人公に共感的に言葉を発する機会をつくることである。自分事として考えることで、いのちのありがたさについて思いを深めることができると考える。三つ目は、書く活動を取り入れることである。1単位時間の中で考えたり感じたりしたことを、自分の言葉で表出させることで、学びをより確かなものにしていきたい。書く活動を苦手とする児童もいるので、時間を十分にとったり、ことばを例示したりしながら配慮していきたい。

4 本時のねらい

五感を通して「生きているしるし」を実感したり、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いなどを考えたりすることを通して、日々生きることを喜びや幸せとして捉え直し、自他の生命を大切にしていこうとする意欲を養う。

5 展開

進	学 習 活 動	主な発問・児童の反応例	指導上の留意点・ 予想される児童の変化(教師の願い)
導 入	1 いのちがあることを実感する。	○クイズやエクササイズをしてどんなことに気付きましたか。 ・触ったら温かい。やわらかい。 ・にらめっこしたらおもしろい。 ・強く手を握られると痛い。 ○みんながもっている「生きているしるし」はどんなことがありますか。 ・笑うこと ・走ること ・いろいろ考えたりすること	・前もって、生まれてくるまでの期間の長さ、心臓の音、赤ちゃんの重さなどを、映像やぬいぐるみなどを使って実感させ、いのちの誕生について思いをふくらませておく。 ・「○○さんにできて、お人形さんにできないことは何でしょう。」などのクイズや「にらめっこ」などのエクササイズを行って、自分達にはいのちがあることを実感させる。 ・実感したことを「生きているしるし」として紹介し、他にどんな「生きているしるし」があるか考えさせる。
展 開	2 教材「たんじょう日」を読み、話し合う。 (1) なつこが生まれたばかりの頃のお母さんの気持ちについて話し合う。 (2) 今のお母さんの気持ちについて話し合う。 (3) なつこの気持ちについて話し合う。	○お母さんは赤ちゃんのどんな姿を見て安心したと思いますか。 ・息をしていること ・心臓が動いていること ・手や足が動くこと ・寝顔 ○お母さんはどんな気持ちで、おちちを哺乳瓶に入れて病院に届けたのでしょうか。 ・早く大きくなってね。 ・心配だなあ。 ・早くだっこしてあげたい。 ○今、なつこさんと話しているお母さんは、なつこさんのどんな姿を楽しみにしていると思いますか。 ・元気に学校に行くこと。 ・何かをがんばること。 ・夜ぐっすり寝ている姿。 ○なつこさんは、お母さんに、「お誕生日おめでとう」と言われた後、何と言って返したでしょうか。 ・いつもありがとう。 ・お母さんのおかげで楽しく学校に行くことができているよ。 ・これからも元気でいるから	・保育器の挿絵を使い、「なぜ透明なのか」「どうしてお母さんはマスクや帽子を身に着けているのか」などを先に問い、赤ちゃんのために細心の注意を払っていることに気付かせた後に、発問を続ける。 ・ちょっとしたことが命の存在を知らせてくれることに気付かせる。 ・40日間という期間の長さを捉えさせ、親の赤ちゃんに対する愛情の深さを感じさせる。 ・そう思っていたのは、お母さんだけか尋ね、父親や兄弟、祖父母など家族みんなが心待ちにしていたであろうことを押さえる。 ・なつこが保育器の中にいるときのことを想起させ、その時と同じような姿を見ることも安心につながるか考えさせる。 ・お母さんが知りたいことを考えさせ、後の役割演技につなげる <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 母親や家族の視点で、いのちがあることの尊さや喜びについて気付いている。 </div> ・お母さん役となつこ役で役割演技をさせ、お母さんの愛情やなつこの気持ちの高まりを実感させる。 ・教師と代表児童でモデルを示し、なつこ役の言葉を「ありがとう」だけで終わらせないように留意する。 ・なつこの言葉を「生きているしるし」につなげ、これからこのサインは大きくなると思うか、自分だったらどうしたいか

終 末	3 自分のこれからの生き方について希望を持つ。	<p>ね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度からは、朝、自分で起きられるようになるからね。 <p>○これから、みんながお家の人に見せたい「生きているしるし」にはどんなものがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔でいること。 ・一生懸命な姿。 ・健康に生きること。 	<p>を問い、児童の言葉を拾い上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技を通して感じたことや考えたことを基に、実際の自分はこれから何を大切に生きていくか考えさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いのちがあることへの感謝やこれからの自分の生き方について、前向きな気持ちなどを述べることができる。</p> </div>
	4 教師の説話を聴く。	<p>○先生が感じた「生きているしるし」を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や周囲の人を元気にする力が、子供たちにはあることをエピソードとして伝える。